

国際博覧会推進本部（第2回）

議事録

日 時：令和3年8月27日（金） 9：30－9：45

場 所：官邸4階会議室（本部長、副本部長のみ。他はオンラインで自室等にて。）

出席者：菅内閣総理大臣、加藤内閣官房長官、井上国際博覧会担当大臣、麻生財務大臣、武田総務大臣、田所法務副大臣、茂木外務大臣、萩生田文部科学大臣、山本厚生労働副大臣、野上農林水産大臣、梶山経済産業大臣、赤羽国土交通大臣、神谷環境大臣政務官、大西防衛大臣政務官、平沢復興大臣、棚橋内閣府特命担当大臣、河野内閣府特命担当大臣、西村内閣府特命担当大臣、坂本内閣府特命担当大臣、平井内閣府特命担当大臣、丸川内閣府特命大臣

【井上大臣】

ただ今から、「国際博覧会推進本部」を開催いたします。ご多忙の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日はオンラインでの開催となります。

本日の議題について、資料に沿ってご説明いたします。

《インフラ整備計画をはじめとする基本方針の具体化について》

まず、資料1に沿って、インフラ整備計画をはじめとする基本方針の具体化について、ご説明いたします。

1ページをご覧ください。昨年12月に、大阪・関西万博の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針を閣議決定いたしました。この基本方針に沿って、大阪・関西のみならず全国的な機運醸成を進めるとともに、周辺インフラの整備、各国への参加招請活動、大阪・関西万博のコンセプトとしている「未来社会の実験場」の具体化など、万博開催に向けた準備を政府一丸となって加速していくことが必要です。

2ページをご覧ください。周辺インフラの整備については、会場へのアクセスの向上に加え、にぎわいや魅力の向上、さらには、開催後の大阪・関西の成長基盤ともなる広域的な交通インフラの整備も重要です。このため、国がインフラ整備計画を策定し、着実に進めていきたいと考えております。インフラ整備計画については、後ほどご説明いたします。

3ページをご覧ください。参加招請活動については、これまで主要国を中心に各国閣僚とのウェブ会談や駐日大使への働きかけを積極的に行ってまいりました。また、菅総理をはじめ関係閣僚からも首脳・閣僚レベルで働きかけを頂いております。これまでに、54か国、5国際機関から参加表明を得ており、着実に進展していますが、目標の150か国・25国際機関の参加を目指し、コロナ禍など厳しい状況ではありますが、引き続き、オールジャパンでしっかりと参加招請活動を進めていきます。

4ページをご覧ください。大阪・関西万博は、「未来社会の実験場」をコンセプトと

しており、カーボンニュートラル、デジタル、モビリティなど、様々な最先端技術の実証・実装を行う機会と考えております。これらの具体化に向けて、今後、各府省庁において、予算の確保、新たな制度設計、規制改革など、必要な措置を実施していくことが重要であり、政府一丸となって推進していくため、今後のアクションプランを年内に取りまとめたいと考えております。

《2025年に開催される日本国際博覧会（大阪・関西万博）に関連するインフラ整備計画（案）について》

次に、資料3の「2025年に開催される日本国際博覧会（大阪・関西万博）に関連するインフラ整備計画について（案）」について、資料2の概要に沿ってご説明いたします。

本インフラ整備計画は、平成29年4月の閣議了解「大阪府における2025年国際博覧会の立候補及び開催申請について」及び昨年12月に閣議決定された基本方針を踏まえ、大阪・関西万博の円滑な開催を支え、また開催の効果を高めるとともに、大阪・関西万博後の地域の社会経済活動を支える成長基盤となるよう、定めるものです。

なお、インフラ整備計画案の作成にあたっては、開催地である大阪・関西から本年7月に政府に対し提出があった要望書を参考としております。

1 ページをご覧ください。整備を進める事業を「会場周辺のインフラ整備」、「会場へのアクセス向上」、「安全性の向上」、「にぎわい・魅力の向上」、「広域的な交通インフラの整備」の5項目に従って定めるものです。

2 ページをご覧ください。まず、1つ目の「会場周辺のインフラ整備」の項目においては、万博会場周辺において旅客輸送力の増強や交通円滑化等を図り、万博の円滑な開催を支えるため、港湾における道路、鉄道などの基盤整備、稼働中の夢洲コンテナターミナルなど物流機能の強化に資する事業などを対象としております。

3 ページをご覧ください。2つ目の「会場へのアクセス向上」の項目においては、会場へのアクセス向上のため、鉄道・道路・空路・海路の交通インフラの機能強化、主要ルートとなる高速道路などに接続するアクセス道路、隣接府県から大阪府域へのアクセス道路の機能強化に資する事業などを対象としております。

4 ページをご覧ください。3つ目の「安全性の向上」の項目においては、アクセスルートの安全性の確保や施設の耐震化、災害時の活動拠点の整備などにより、安全・安心な大阪・関西万博の開催の確保に資する事業を対象としております。

5 ページをご覧ください。4つ目の「にぎわい・魅力の向上」の項目においては、来場者の交流拡大を図るため、夢洲を拠点として関西・西日本をつなぐ新たな水上・海上ネットワークの形成や、都心部での水辺魅力の向上など、にぎわいや魅力の向上に資する事業を対象としております。

最後に、6 ページをご覧ください。5つ目の「広域的な交通インフラの整備」の項目においては、大阪・関西の成長基盤となる広域的な交通インフラの強化に資する環状高速道路ネットワークの形成や、鉄道・軌道の整備の推進により、大阪・関西地域の社会経済活動の活性化、大規模災害等に備えた強靱な国土づくりに資する事業を対象とし

ております。なお、こちらの項目につきましては、万博開催以降にその整備効果を発揮する事業についても含めることとしております。

以上がインフラ整備計画案の概要です。

《 大阪・関西万博関係府省庁連絡会議の開催について（一部改正案）について
国際博覧会推進本部の後援等名義の使用について（案） について
国際博覧会推進本部の後援等名義に関する規程（案） について
国際博覧会推進本部長等の賞状等の交付に関する規程（案） について》

最後に、資料4、5、6、7のとおり、関係規程を整備したいと考えております。

それでは、議論に移ります。まず、梶山経済産業大臣、よろしく申し上げます。

①梶山経済産業大臣

大阪・関西万博は、日本の魅力を発信する絶好の機会です。大阪・関西に加えて、日本全体の成長・活性化にもつながるよう、万博を担当する経産省としても、井上大臣など関係閣僚と連携して、「未来社会の実験場」の具体化に向けた官民挙げての取組を進めてまいります。

政権の重要課題であるカーボンニュートラル実現に向けた挑戦は、日本の成長戦略そのものです。水素・アンモニア発電、CO2 吸収型コンクリート、CO2 分離回収など、革新的技術の実証フィールドとして万博を活用することを目指します。併せて、日本の最新技術を世界に示し、ビジネスチャンスに繋げることで、経済と環境の好循環を生み出してまいります。

また、空港などの交通拠点から万博会場への移動手段として、空飛ぶクルマを活用します。さらに、自動配送ロボットによる食事のデリバリーなども行うことで、日本のモビリティ技術を世界に向けてPRします。

今後、準備が本格化する中、各国への参加招請活動をさらに推進することが必要です。私も各国要人との面談など、様々な場で積極的な働きかけを行ってまいります。

世界に誇る万博を実現するため、しっかりと準備を進めてまいります。

②茂木外務大臣

外務省としても、大阪・関西万博への海外からの参加招請活動に取り組んでおりまして、私も各国との外相会談やマルチの会議の場などで働きかけを行ってきました。これまでに井上国際博覧会担当大臣からもあったように54か国・5国際機関から正式に参加表明がありました。

大阪・関西万博成功のために、多くの国・機関からのパビリオン出展を目指し、外務省として、本推進本部や経産省はじめ関係省庁と連携し、引き続き参加招請活動を積極的に行っていきます。

③赤羽国土交通大臣

国土交通省としては、大阪・関西万博の円滑な開催を支えるとともに、万博開催を契機として関西のみならず全国への観光の促進を含め、地域の社会経済活動を支える成長基盤となるインフラ整備等を図ることは、大変重要な課題であると認識しております。

このため、先ほど井上大臣よりご説明のありましたインフラ整備計画に基づき、5つの項目について、書かれている必要な事業を着実に推進するとともに、それに加えて例えば、万博会場や関西国際空港をはじめとする関西3空港、また拠点の鉄道駅、淡路島・四国等々の海路・空路を含めたアクセス等にもしっかりと取り組んで参りたいと考えております。

また、今般の万博のコンセプトであります「未来社会の実験場」の実現にも貢献して参りたいと考えております。具体的には、万博会場内での移動や近隣空港から万博会場への移動に空飛ぶクルマを活用できるよう、精力的に取り組んでいるところです。空飛ぶクルマは世界各国で開発中ですが、我が国においても世界に先駆けた実現を目指し、福島ロボットテストフィールドに国土交通省の職員を常駐させ現場でのサポートを行うとともに、必要な制度整備等を進めて参りたいと思います。

国土交通省としましては、大阪・関西万博の成功に向け、関係省庁、大阪府・市等の地元自治体、関係事業者等と緊密に連携し、これらの取組みを着実に進めて参ります。

④武田総務大臣

資料1の6ページをご覧ください。総務省としては、大阪・関西万博において、多言語同時通訳及びBeyond 5Gなどに力を入れて取り組んでまいりたいと考えています。

多言語同時通訳につきましては、パビリオンや講演会場での活用も念頭に置き、オンラインや字幕表示等にも対応した多言語同時通訳システムの実装を目指しております。

Beyond 5Gにつきましては、産学官の連携の下で進める研究開発の成果をショーケースとして発信し、我が国の先端技術を世界に先がけてアピールしてまいりたいと考えています。

【井上大臣】

ありがとうございました。それでは、議論はここまでといたします。

本日お諮りした資料3から7について本案のとおり国際博覧会推進本部決定としたいと存じますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは本案のとおり決定いたします。最後に本部長の菅総理から、締めくくりのご挨拶をいただきたいと存じます。プレスが入室しますので、少々お待ちください。

[プレス入室]

それでは、菅総理、よろしくお願いいたします。

【菅内閣総理大臣】

本日は、2025年の大阪・関西万博に向けた当面の具体的な取組を議論いたしました。

大阪・関西万博は、『いのち輝く未来社会のデザイン』がテーマです。ポストコロナに向けた、新しい生き方や暮らしの在り方、そして、子供に夢や希望を与える未来の社会の姿を、世界各国と共に、大阪・関西から全世界に発信していきます。

万博の基本方針の具体化に向け、本日、インフラ整備計画を決定いたしました。これが、大阪・関西全体の成長基盤にもなるよう、必要な予算措置を含め、計画の実現に取り組んでいきます。また、世界各国への参加招請については、G7などの機会に、私からも各国の要人に直接要請しております。目標である150か国、25国際機関の参加の確保に向け、できるだけ多くの国に早期の出展表明を頂けるよう、政府一体となって、積極的な参加要請を進めます。

さらに、未来社会の実験場にふさわしいプログラムの検討を、カーボンニュートラル、デジタル、モビリティなどを切り口として官民一体で加速化します。鍵となるのは、創意工夫を持った民間企業の参画です。そのために必要な規制改革や支援策について、年内にアクションプランを取りまとめます。

今後の取組の重点となる、各国の参加招請については茂木大臣が、企業の参画については梶山大臣が、それぞれ井上大臣と協力し、しっかり取り組んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

【井上大臣】

菅総理、ありがとうございました。それでは、プレスの方はご退室をお願いいたします。

[プレス退室]

本日の議事内容については、資料を含め内閣官房から公表することを予定しておりますので、ご了承ください。

菅総理からご発言がありましたとおり、大阪・関西万博の成功に向けて、引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上で閉会いたします。本日はありがとうございました。

以上